



## 19号の主な内容

平成二十九年定時総会開催	2
企業訪問「筑波山 江戸屋」	3
ボランティア・グループを訪れて	4
地産地消の青空市	5
草取作業	6
土に親しむ	6
筑波山地域ジオパーク便り	7
剪定草刈り班がゆく	8
付記	8

## 平成二十九年度定時総会開催

公益社団法人つくば市シルバー人材センターの平成29年度定時総会が、本年6月29日午前10時市内の市民ホールとよさとで開催されました。

揃いのオレンジ色のジャンパーを着用した受付のメンバーは、にこやかに出席会員の対応に追われていました。当日は市議会の日と重なったため市長のご出席はいただけませんでしたがお祝いのメッセージを頂戴しました。お礼を申し上げます。

議事進行においては事業報告、事業計画、収支予算の報告があり、また承認事項はいずれも承認されました。

課題としては、会員の減少と技能分野の就業会員の減少があげられており、少しでも解決できるよう役職員で一層取り組み姿勢が示されました。



会員6名が平成29年度安全標語の表彰をされました。  
あわせて今年度は7名の会員が功労者表彰されました。

## 〈五十嵐立青つくば市長のご挨拶〉(要旨)



今日は定時総会が開催されましたこと、心から喜び申し上げます。

そして日頃から、会員の皆様には市政全般にわたり深いご理解と多大なるご協力をいただいておりますこと、厚くお礼申し上げます。

さて、超高齢化が進む中、センターを通し就業することで、地域社会に貢献し、生きがいを持って生活されるということだと思います。

この就業活動が地域社会を活性化し、信頼され、元気を与えているものと確信しています。

また、子育て支援の一時預かり事業をはじめ様々な事業を実施いただき、心から敬意を表する次第です。

このような皆様の活動が、今後のつくば市の未来を支えていくといっても過言ではないと考えています。

今後センター事業の一層の発展と、会員の皆様のご健康とご活躍を心よりご祈念申し上げます。

## 〈橋本憲明理事長のご挨拶〉(要旨)



今年2月に圏央道の県内区間が全線開通し、東名から東関東までの6高速道路が繋がった

ことで、物流や成田空港からのアクセスがより便利になり、茨城県内を始め観光や経済活動の活性化が期待される中、つくば市も色々な事業展開の中心的役割を担うものと思われれます。当センターとしてもこれを好機と捉え活動の場を広げたいと考えています。

年初にも申し上げました様に先ずは心に「ゆとり」を持つことです。それは気持ちの焦りを静め、周りを広く見渡し、先を見通して行動する事で余裕が生まれます。この「ゆとり」が安全に繋がります。ひいては就業や社会活動に活かされると確信します。

事業運営においては、経営の健全化・適正就業について・会員の増強・後継者育成・就業開拓そして安全に就業の六つの重点目標を掲げました。また、会員の皆さんには万一に備え自動車任意保険への加入を是非お願いします。

(注) 本文中では「つくば市シルバー人材センター」を「センター」と称する場合があります。





ホテル全景



さわやかな笑顔の真紀若女将



屋号の由来と言われる“杉の水”（杉乃井）



昭和ノスタルジー

## 〈企業訪問〉

### 「筑波山 江戸屋」

癒しのふるさとを訪ねて

「春立つや 見古したれど 筑波山」

小林一茶が江戸時代後期に両国橋から詠んだ句で「筑波山江戸屋」第十代女将のお気に入りの一句でもあります。

その歴史は古く、寛永五年参詣客相手の宿屋として創業、今年三百八十九年が経過する老舗中の老舗です。これまでに昭和天皇、皇太子時代

の今上天皇はじめ、明治の大横綱常陸山ほか幾多の著名人が利用されています。

また、九代目吉岡茂夫氏が「ガマの油を考案」がまの油売り口上」の普及に努め、平成十五年九代目女将吉岡久子氏がつくば市観光協会より「がまの油売り口上第十九代永井兵助」に認定されています。（口上内容はホームページをご覧ください）

なお、当シルバー人材センター三名の女性会員が調理場補助要員として就業の機会をいただき、大変お世話になっ

ています。

今回、朝のご多忙の中を、爽やかな笑顔で取材協力いただいた川野真紀若女将には感謝申し上げます。

現在、吉岡久子大女将、吉岡鞠子女将、川野真紀若女将はじめ、スタッフ四十五名（パート含む）にて切り盛りされています。

屋号「筑波山 江戸屋」の由来は諸説あり、当館敷地内から「杉乃井」が湧き出ており「井戸屋」がなまって江戸屋になった説が有力とのことでした。来館者の特徴として、

筑波山の登山客、同窓会、学生の場合等が中心で日帰り入浴客も多く、筑波山にちなんで二千九百八十三円（税込）の食事つき日帰り入浴も人気があり、おすすめプランだそうです。

今後の展望として（思いやり・信頼・和）をモットーにこれまでの古き良きものは残しつつ、時代に合った新しいものも取り入れながら、魅力度をアップして行きたいと力強く語られた若女将の美しい瞳がキラリと光って見えました。

## <アクセス>

[電車、バス]

常磐線土浦駅→（関鉄バス約50分）筑波山口→（徒歩3分）沼田→（筑波山シャトルバス6分）筑波山神社入口→（徒歩5分）筑波山江戸屋

[車]

常磐自動車道土浦北IC→（約30分）筑波山江戸屋

・駐車場あり、25台無料



会員の就業風景

「筑波山江戸屋」に注目です。ジオパーク構想も相まって「筑波山



ボランティア・グループを訪れて  
手代木調理ボランティア

昨年のある秋の日、松代交流センターでは、13人の調理ボランティアの方々が、地域高齢者サービス配食弁当作りの真最中でした。季節の煮物・野菜・食材の香りが漂ってきます。

一人暮らしの高齢者や高齢者世帯の方々に毎月1回食事を届けるための、70人分の弁当が次々とテーブルに並べられていきます。献立と食材は社会福



社協議会（社協）の提供で、全てがボランティアの手作りです。美味しく食べていただけるようにとの思いを込めながら手際よく、弁当パックに詰められていきます。

「高齢者の方々が毎月楽しみに待っていて下さるのです。それが一番嬉しいんです。私たちはずっと続けていきたいと思えます。それに、ボランティアさんの仲間が素晴らしいです。」と担当の方が笑顔で語って下さいました。この話を聞き、ボランティアさん





とのコミュニケーションの素晴らしさが伝わってきてホッとした気持ちになりました。

お弁当ができあがった頃、地域の民生委員の方々がエコバックを手に来られました。この後は民生委員にバトンタッチされ、温かく美味しいお弁当が健康状態と安否確認とを兼ねて間もなく届けられます。私は毎月、この食事献立のボランティアをしており、素晴らしい活動であるとの思いから紹介をさせていただきました。

## 地産地消の青空市

毎週土曜日の11:00～11:30は、手代木児童館とスーパーの隣りで青空市が開かれ、ファンが多くあつという間に売り切れてしまいます。

地元農家二代目の生産者が前日収穫した泥付き旬野菜を直売。野菜が持っている本来の味がして、日持ちも良いように思います。

生産者は減農薬・有機肥料の栽培に努めていて、流通の発達した現在、様々な物が容易に手に入る消費者にとって、生産者の顔が見えると言うのは安全・安心につながります。



また、農協に出荷できない規格外の商品もこの青空市に出して販売できるので無駄がなく価格も安い。しかも消費税も無しで過剰包装も一切無く、赤や黄色のコンテナに野菜を積み込み、地面に並べて販売しています。販売員は皆ボランティアです。販売員の特典はお客さんより先に欲しい野菜を真っ先に買えること、生産者と顔見知りになり、農家ならではの料理の方法を教えてもらえます。

中国・ネパール・エジプト・インド等、外国語が頭の上を飛び交うつくば市ならではの国際色豊かな旬野菜の青空市です。





## 草取作業

これからの季節は「草取作業」の依頼がかなり増加しますが、この作業を含めいろいろな作業を行っているグループの草取作業を紹介します。

5月初旬、豊里地区東光台にあるお客さまのオリエンタルモーター株式会社つくば事業所から草取りのご依頼を受けました。広大な駐車スペースの植え込みの雑草を取り除く作業です。好天が続いているので芝生のなかの雑草の伸びが早く、はびこってきています。これを取り除くわけですが、草取りというより草抜きといった方がふさわしいです。今日は12人での作業ですが、



綺麗になるのは気分も清々しくなります。

暑くしかも湿気の多いこれからの季節は熱中症との戦いになります。草取りに夢中になっていると、水分の補給など忘れてしまいます。気をつけてこまめに水分を取るようになっています。中腰の姿勢はかなりきついので地面に膝をつきながら作業を進めます。

このグループの作業範囲はかなり広いエリアで「つくば市全域」を対象としていて、しかも、自分たちでもできるさまざまな作業を行っています。作業規模により人数を多めにしたり加減しながら進めます。草刈機を使う草刈作業、軽い剪定作業なども行います。作業をしているところを見かけましたら気軽に声を掛けて下さいと言っていました。



気が置けない仲間です。

## 〈土に親しむ〉作り育てる喜び〜家庭菜園

退職後の活動として、趣味と実益も兼ね、根強い人気をもつ家庭菜園。当センター会員でもある青木亨司（73）さんがそれに励む姿を追いました。青木さんは長野県佐久地方の農家の生まれ。当時の農作業は、多くを人間の労力に頼っており、堆肥、リヤカーという懐かしい言葉が飛び出してきました。同氏が家庭菜園を始めた動機は、このように土から離れられない生活で始まったことに起因するかもしれません。その後、農水省の試験場や研究所



いつもの作業スタイル。





苗作りが基本という青木さん。その一部がここに見えるピーマン、モロヘイヤ、ゴーヤ、ナス、ブロッコリー、カボチャなどなど。

生活が約四十五年間。転勤先でも畑仕事を続けてきたそうです。これまでの人生や仕事での経験や知識には、この田園生活と深く関わりがあり、幾つかの病という障害も乗り越えることができたのでしよう。

つくば市内の現在地に住み始めて十二年。自宅周辺に買った一二〇坪にもなる土地で行う畑作業は、心地のよい汗をかく運動だけでなく家計の足しにもなっているようです。有機肥料(馬糞など)による安心農法ですが、育てて収穫する喜びが大きいので、体が動くかぎり、この楽しみを続けたいというのが、青木さんの言葉でした。



<つくばフェスティバル2017>の会場風景です。

**「筑波山地域ジオパーク便り」**  
**「筑波山ジオ二色コロッケ」が大賞!**

今回はジオパークにまつわる食べものの話題です。筑波山地域ジオパークを大地の恵みである「食」でPRするため、同協議会がアイデアを一般募集し、「筑波山ジオ二色コロッケ」などの大賞を選び、表彰式を行いました。大賞作品のジオコロッケは、すべて筑波山近くで生産された食材を使った、市民による新作です。五月十四日に開催された「つくばフェスティバル

筑波山地域ジオパーク  
推進協議会

事務局本部  
〒305-8555  
茨城県つくば市  
研究学園一丁目1番地1  
電話:029-883-1111(代表)  
<http://tsukuba-geopark.jp/>  
<https://www.facebook.com/Tsukubageopark/>



大賞を博した筑波山ジオ二色コロッケ。

2017」で限定販売され、なかなかの味だと、来場の市民から高評価でした。



## 〈剪定草刈り班がゆく〉

5月下旬良い天気にも恵まれた日、剪定講習会・審査会が「畜産・草地研究所」（荻崎地区）の場所をお借りして、今年も「安全作業」を最重要テーマに実施されました。

皆、真剣な面持ちで取り組み、すぐに成果が出て綺麗に仕上がっていました。ここで学んだ技術は日頃の作業に活かされることとなります。剪定・草刈班および草刈班は、全地区で増強募集しています。興味のある会員さん、あなたも一緒にチャレンジしてみませんか。詳しくは事務局までお問い合わせください。



## 〈ご案内〉

平成二十九年  
度入会説明会は  
次の通りで行い  
ます。入会をご  
希望の方は、直  
接説明会会場に  
お越しください  
い。お問い合わせ  
せは、電話で受  
け付けておりま  
す。ホームページ  
にも掲載して  
おります。

## 〈付記〉

表紙中央の鉛筆画、会員が丁寧に色鉛筆で描きました。左下は、つくば市南に広がる水田の上を飛ぶ鳥は、農家が言うシロサギと思われまふ。この辺りではアオサギとともに、普通に見られる野鳥です。

### ◆きずな原稿募集

「きずな」の原稿を随時募集しています。就業先での出来事や体験談、身近な出来事等々、お待ちしております。投稿いただきました原稿を掲載した場合、些少ではありますが掲載謝礼をご用意いたします。

開催月日	時間	会場
8月10日(木)・9月14日(木) 10月12日(木)・11月9日(木) 12月14日(木)・1月11日(木)	午後 1時30分	シルバー人材 センター会議室 (大穂庁舎3階 会議室)

場所が変更になる場合があります。HPで確認するか、電話で確認して下さい。